

前期課程

がんばったよ
野菜はん売

三年A組 種村 風芭

二学期の間、心をこめて野菜を育ててきました。しゅうかくしたときには、すごく大きいと思っただし、「この野菜を売るのかあ、きんちょうするな」と思いました。

野菜を売るときには、お客さんに親切にして、よろこんで買ってもらえるように目標を立てました。いねいな言葉で話すようにがんばりました。お客さんに聞こえるように「いらっしやいませ」や「ありがとうございます」と言えたのでほっとしました。

いっしょに売っていた友だちもお客さんに声をかけたり、お金の計算をしたり、おすすめのプレゼントをしようかいたりしていて、がんばっていました。みんなで協力して、野菜を全部売ることができたのでうれしかったです。



わたしたちの野菜
はん売しました

三年B組 立松 かりん

わたしは、お客さんと会話をしながら仕事をするという目標を立てました。

野菜を収かくするときや、水をあげるときにも、村の人たちのことを思いながらやっていました。だからこそ、売るときにはやさしく笑顔でお仕事をしたいと思いました。

販売当日。ひかえ室にいたとき、お客さんが待っているのを見て、わたしはきんちょうしてきました。でも、お店に出たときには、お客さんとの話し方も考えながらがんばりました。

お母さんがわたしたちが作ったほうれん草と白菜を買ってくれました。あんなに一生けん命育ててきた野菜だから、すごくおいしかったです。

野菜のはん売はたいへんだったけれど、楽しくできました。





後期課程

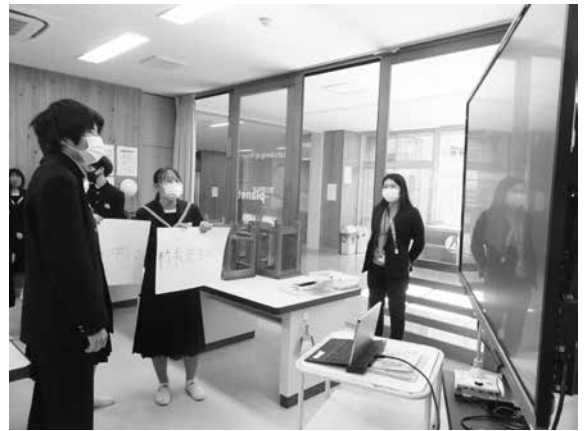
白川郷学園との交流で学んだこと

八年A組 加藤 寛翔

僕は、白川郷学園とのリモート交流会で行ったアイスブレイキングの司会を務めました。アイスブレイキングでは、自己紹介やそれぞれの学園のよいところを伝え、交流を深めました。

スライドを使った発表では、同じ義務教育学校でも行事や特色が違うことがわかりました。例えば、白川郷学園には「どぶろく祭り」という行事や小学生と中学生全員で触れ合える「結クラス」というものがあるそうです。

交流を通して学んだことは、自分たちと同じ義務教育学校でも、その地域によって文化が異なることです。僕は異なる文化をもつ人たちがいることを理解して、互いに尊重し合うことができるようになると思えました。



リモート交流会を終えて

八年A組 河村 優乃

私がリモート交流会を終えて感じたことは、白川村と飛島村の違いです。なぜかというところ、白川郷学園のプレゼンテーションを聞いて、白川村には地域ならではの祭りや学校行事があることが分かったからです。また、「結クラス」や「リーダー・プロジェクト」などの活動や、人口が少ないからこそできることを知りました。飛島村特有のことや白川村特有のことは何か、また、環境が違うからこそできることとできないことは何かを考えさせられました。



た。今回の交流は白川村や白川郷学園の活動について知り、自分の学園との違いを知るよい機会になりました。今後白川村に行ったら、交流会で聞いた場所に行ってみたいと思います。



飛島学園 2月の行事予定

- 15日(火) 9年卒業テスト
- 15日(火)~16日(水) 7・8年学年末テスト
- 21日(月) 9年生を送る会
- 25日(金) 学校公開